

## 会議録

### 1. 開会

### 2. 話題

(市長)

皆さん、こんにちは。

今日は、今年度第2回目となります定例記者会見にお越しいただきありがとうございます。本日は私から5点ほどお話をさせていただきたいと思います。

まず、1点目でありますが、「道の駅サーモンパーク千歳のグランドオープン後の運営状況」について説明します。

「道の駅サーモンパーク千歳」については、本年8月24日にプレオープン、26日にグランドオープンしたところであります。その後、9月及び10月の来館者数は、合計で21万7,469人となっており、隣接する千歳川のサケの記録的遡上で多くの観光客が来館した昨年度よりも、3,726人多い状況となっております。

また、この2か月の売上金額は、昨年同時期より、約1億3千万円増加し、約2億4,300万円となっております。

現在の指定管理者からの当初の提案では、本年度の収入目標金額は3億6千万程度となっております。開業は遅れたものの、出足は大変好調であり、この目標金額を達成できる見込みがあるものと期待しているところであります。

次に2点目、石川佳純（いしかわ かすみ）さん「47都道府県サンクスツアー in 北海道ちとせ」の開催について説明します。

このサンクスツアーは、卓球日本代表として活躍された石川佳純さんが、全国各地を訪れ、これまで応援してくれてきた方々に、直接の交流を通じて感謝の気持ちを伝え、卓球の魅力、スポーツの楽しさを伝えるもので、この度、北海道でのツアーを、本市で行うことが決定いたしました。

日時は、12月27日の13時30分から16時まで、会場は、千歳市スポーツセンター（ダイナックスアリーナ）」を予定しております。

主催は、本市のほか、千歳市スポーツ合宿・大会誘致等推進協議会、千歳市体育協会、千歳卓球協会、日本卓球株式会社などの協力を得て実施いたします。

当日の内容につきましては、現在調整中ではありますが、市内の子どもたちを対象とした卓球教室や、トークショー、記念撮影などを予定しております。

また、一般観覧として、市民200人程度の入場を想定しておりますが、申込方法等の詳細につきましては、先方との調整が整い次第、随時、ホームページ等で周知を図ってまいります。

市としては、この度のサンクスツアーによるトップアスリートとの交流が、本市におけるスポーツの普及・振興につながるものと期待しております。

次に3点目、「千歳市 GPS 除雪情報システム」について説明します。

市では、除雪作業の見える化を図るため、作業の進捗や車両の走行軌跡をスマートフォン等で確認することができる「千歳市 GPS 除雪情報システム」を整備しており、12月の一般公開に先がけ、その一部をご紹介します。

まず、これまでの情報提供の現状と課題についてですが、除雪情報については、市公式LINEや委託業者のホームページによる「除雪開始予定時間」などの「文字情報」を提供してきたほか、昨年は、試行的に除雪車の位置情報を提供しておりましたが、地図が分かりづらい、大雪時にアクセスが集中した際には、リアルタイムで閲覧できないなどの課題がありました。

また、市民からの問合せでは、「除雪車が遅い・来ない・いつ入るのか」、また、「除雪作業の情報（車両位置など）が見えない」などの意見が多数寄せられており、「除雪情報の見える化」のニーズが高まっていました。

そこで、今年度、新たな「GPS 除雪情報システム」の整備を進めており、サーバーの強化や機能の充実を図ることにより、アクセスが集中した際などでも、パソコンやスマートフォンなどから、インターネット上で、よりリアルタイムに閲覧できるよう、バージョンアップを図ったところであります。

次に、一般公開機能について説明いたします。

現在、12月1日の一般公開に向けて、準備を進めており、完成後は、千歳市のホームページに掲載したバナーや市公式LINEのリンクからアクセスします。

次に、お住まいのブロック名を選択すると、こちらの一般公開用の画面が表示されます。

背景図は国土地理院の地図やgoogle map、航空写真から、任意で選択することができます。こちらは、除雪車両が除雪作業を実施した場合のイメージ画像です。左の画像は、除雪作業の開始時で、除雪車両のアイコンと走行軌跡が表示されます。

また、右の画像は、開始から9時間経過した場合を示しており、リアルタイムで車両の位置と走行軌跡が表示されます。

また、除雪車のアイコンを選択すると、その除雪車が走行した軌跡が表示されます。アニメーションにより、時間をさかのぼることも可能でありますので、何時頃に除雪車が通行したか確認することができます。

そのほか除雪車両の担当エリアを表示することもできます。

このシステムは12月1日から公開する予定ですので、ぜひ、ご利用いただきたいと思います。

なお、本システムは、現在、整備中であることから、公開時には一部レイアウトが変更となる可能性があります。作業が完了しましたら、改めて皆様にお知らせしたいと考えています。

最後になりますが、去る11月2日に、「除雪安全祈願祭」が開催され、今季の除排雪作業が安全に行われることを祈願するとともに、除排雪作業に携わる約120台の除雪車と約200人の作業員の体制を整えたところであります。

道路は、市民にとって最も身近な公共施設でありますことから、市としましては、引き続き、安全で快適な冬期の道路環境の確保に取り組んでまいります。

次に4点目、新千歳空港の利用状況について説明します。

9月の乗降客数の速報値において、国内線が188万人、国際線が18万人、全体として206万人で、前年比130.9パーセントとなっており、コロナ禍前の令和元年比では、国内線が96.1パーセント、国際線が92.8パーセントとなるなど、航空需要は着実に回復してきております。

10月20日から22日の3日間、道内7空港が所在する10市町(しまち)と、北海道エアポートで構成する「北海道誘客促進実行委員会」の主催、航空会社などの協力のもと、道内誘客促進・航空利用促進のための首都圏プロモーション事業「第2回これがわたしのHOKKAIDO(ほっかいどう) LOVE(らぶ)! 祭(まつり)」を横浜の「MARK(まーく) IS(いず) みなとみらい」で開催しました。

会場では、セレクトショップやワークショップ、トークイベントなどを通じて、北海道の自然、食、アクティビティなどを紹介し、多くの方に来場いただきました。

ワークショップでは、千歳アイヌ協会の協力により、アイヌ文様の木彫り体験を3回に分けて実施し、15名の募集枠はすべて満員となりました。

参加者からは、「アイヌ文様がかわいい」、「楽しかった」、「参加してよかった」などの声をいただいたほか、用意したアイヌ民族紹介のパンフレットは、イベント期間中に全てなくなるなど、アイヌ文化に対する関心の高さがうかがえました。

トークイベントでは、千歳市出身の豊澤(とよさわ)瞳(ひとみ)さんが、「北海道ならではの! サウナでととのう 豊かな四季の旅」をテーマに、ととのえ親方と軽快なトークを繰り広げ、丸駒温泉をはじめとするサウナを中心に、北海道の魅力を紹介しました。

イベント来場者からは、「北海道のいろいろな自治体がまとまって来るのは嬉しい」、「横浜では見られない文化に触れられて良かった」などの意見が聞かれ、イベントを通じて「北海道に行きたくなったか」の質問には、98.5%の方が「はい」と回答するなど、北海道への興味や関心の高さがうかがえました。

引き続き、関係自治体や空港事業者などと連携しながら、航空・空港の利用促進や航空路線の維持、拡充などに取り組んでまいります。

次に5点目の、「日本航空高等学校北海道」の開校について説明します。

現在、市内泉沢で、専門学校(日本航空大学校北海道新千歳空港キャンパス)と通信制過程の高等学校(日本航空高等学校北海道キャンパス)を運営する、学校法人日本航空学園が、令和6年4月に、道内初の「航空科」の全日制高校となる「日本航空高等学校北海道」を開校いたします。

この学校は、1学年の定員を80名と予定しており、併設している「日本航空大学校北海道」等への進学による高専一貫教育により、航空整備士やキャビンアテンダントなどの航空従事者を育成するとともに、4年制大学への進学や、スポーツ・芸術活動にも、力を入れた教育を行っていくものと伺っております。

市としても、市内3校目となる全日制高等学校が開校し、これまでなかった「航空科」の授業を受けられるようになることは、市内中学生の進路の選択肢が増える大変喜ばしいことであると考えております。また、市外の生徒が、本市に通学・居住することによる、まちの活性化につきましても、期待をしております。

さらに、同校を卒業した生徒は、将来的に新千歳空港で勤務されることも想定されますことから、人材確保の面でも大きな効果が見込まれるほか、今後、千歳で航空について学んだ方が、新千歳空港で仕事し、千歳で生活するという、「そのまち千歳」ならではの流れが生まれることも、期待をしているところです。

私からは、以上5点申し上げました。以上であります。

### 3. 質問及び意見交換

(記者)

3番の千歳市除雪GPSシステムの件ですが、昨年も走行軌跡、時間、車両を表示できたと思います。昨年導入しての効果と、今回、新たに具体的な機能で変更される点などがあれば教えていただきたいです。

(市長)

昨年までは見える化や情報提供の部分で、まだまだ不足するところがありましたが、実際に画面で見えるということについては、市民の皆様に、除雪状況をお知らせするといった点で、一定程度効果はあったと思います。今回、バージョンアップを図るということで、先ほどもご説明した通り、車の走行軌跡がわかり、背景の地図がグーグルマップを含め3つほど使えますので、より最新の地図を使うということで改善が図られています。市民の皆様に見える化を通じて除雪状況をお知らせするという点で、より丁寧なお知らせができるようになりました。

(記者)

昨年も走行軌跡が見られたと思います。昨年は、除雪した場所とイコールではなかったと思ったのですが、今年も同じような走行軌跡ですか。

(市長)

走行軌跡ですので、除雪が終わった場所が具体的に出ます。例えば、ある地域のこの場所がいつ頃除雪されたかということ把握することができます。

(記者)

先ほどのご説明のスクリーン、5ページ目だと思うのですが、かなり地図としては、広い範囲を映しているのですが、市民の方やユーザの方にとっては、家の近所や職場の近所の道路状況がどうなっているかが気になると思います。特に、右の地図は、広い範囲に見えますが、もう少しピンポイントで見えるのですか。

(建設部長)

これは、去年の状況を図化したものですが、今年バージョンアップを行い、担当エリアのみ、車両ごとなどが選択できる他、スマホで拡大、縮小が自由にできるようになるので、より詳細な自分の家のまわりなどが見えるようになります。

(記者)

できれば、カーナビくらいの感じで、例えば、千歳市役所があって、このまわりの除雪がどうなっているのかわかるようになっているのでしょうか。

(建設部長)

そうなります。

(記者)

石川さんのツアーについて、これは道内では千歳市だけですか。

(市長)

道内開催は千歳市のみです。

(記者)

千歳市と卓球や石川さんとの関係はどういったことがあるのですか。

(市長)

私も、ここに至った詳しい経緯というのは、お聞きはしていないのですが、まず、申込みをするということで千歳市が手を挙げてきたということがあります。念願が叶って、今回に至ったということでもあります。

(観光スポーツ部長)

石川佳純さんのサンクスツアーについては、47 都道府県を石川選手が特に応援してもらった方に直接の交流を交えて感謝の気持ちや、子どもたちの夢を実現するため卓球教室をやっております。今回千歳市は道内初、全国で 15 番目と伺っております。市長から申した通り、昨年あたりから本市で行えないかということ交渉してございまして、それが実現に至ってこの度の開催となったというような流れです。

(記者)

交流というのは主に石川選手と子どもたちで、他にそれを観覧する市民の方 200 人くらい。子どもたちというのは小中学生ですか。卓球のスポーツ少年団ですとか、中学校の卓球部ですか。

(観光スポーツ部長)

基本的には、卓球少年団ですとか、卓球を今やっている子どもたちを主に考えております。詳細については、卓球協会と相談し、より子どもたちが将来に向かって夢を実現していけるようなことを考えております。

(記者)

小中学生はどれくらいの人数ですか。

(観光スポーツ部長)

予定であります、50 人くらいを考えております。詳細については、今後詰めていきます。

(市長)

うちのラブコールが実ったということで楽しみにしててください。

(記者)

日本航空高校についてですが、泉沢にある通信制の高校が全日制に変わるということですか。

(市長)

そうではないです。

(教育部長)

通信制の高校に加えて、全日制の高校ができるということです。定員 80 人の全日制の高校です。

(記者)

日本航空高校は山梨県と石川県にある高校の姉妹校だと思いますが、航空科というのは、パイロットを養成する高校ではないですよね。航空科というのはどういふことをするのですか。どういふ職業に就きやすいのですか。

(企画総務課長)

主に、航空整備士、空港内で働いているグラウンドハンドリングという貨物の積み込みをしている職員、その他、キャビンアテンダント、グラウンドスタッフ このよふな職種に就くことが可能となっています。

(記者)

新たな校舎を建設したり、市外や道外からの生徒が増えることにより、学生寮ができることといったことはあるのでしょうか。

(企画総務課長)

基本的には、既存の校舎や寮が大学校の方にあるのでそちらを使用すると伺っています。

(記者)

GPS 除雪情報システムの関係で軌跡を示すというアイデアは他の自治体でも取り入れられているのか、もしくは、千歳市独自のものなのでしょうか。

(建設部長)

GPS システムというのは、東北地方を中心に広まっていて、北海道でも広まってきています。千歳市独自といったことではありません。

(記者)

今回の導入にあたり参考にされた場所はありますか。

(建設部長)

プロポーザルで導入会社から提案されたものではありませんが、東北地方では、各車両ごとなどを選択できるようにし、わかりやすく、見やすくするということがトレンドになっていますので、それを採用しました。

(記者)

今後、分析などで情報が溜まっていくと思いますが、その情報を活用し効率化していくなどのプランはありますか。

(建設部長)

時間がかかる地区があったりし、それがどこなのか、どの車両なのかが見えてくるようになります。そのような地区においては、例えば応援体制を組む、車両を増車する、そういうことにつなげていければよいと思っています。

(記者)

3点あります。道の駅の関係ですが、かなり好調な滑り出しかと思えます。週末中心に平日でも駐車場が混み合う状況が続いていたり、食用スペースの順番待ちが続いているようなのですが、例えば、千歳市として施設の拡充ないし、臨時駐車場への動線の確保や、もっと近い場所に駐車スペースを設けるなど、さらに利便性の向上に向けた準備や考えはありますか。

(市長)

連休最後の日に道の駅に行きましたが、車が混雑して入れない場合は、臨時駐車場の方へ誘導しています。かなり空いているスペースもまだありましたので、誘導をしっかりと行うことで利用者の利便性につながるのではないかと考えています。



(記者)

2点目ですが、5番目の日本航空高等学校開校の関係ですが、日本航空高校の石川校もそうですが、スポーツが強い学校だと思います。例えば、グラウンドの整備やスポーツ部門で力を入れる予定の話などを聞いていますか。また、地元で3つ目の全日制の高校ができるということで、例えば、小中学生向けに航空業界への興味や日本航空高校への進路を選んでもらったりするための連携教育など考えていることはありますか。

(市長)

施設関係については、現在のところ特に新しくグラウンドや体育館を整備するのではなく、既存の施設を使用すると聞いています。女子のバスケットボールが、短期間の間に北海道の代表になったりと、かなりレベルが高いチームでありますので、期待ができと思っています。

それとPRについては、小中学生に限らず、もっと下の代から、市内の各施設を使用するイベントなどに航空大学の皆さんに参加をいただいて、子どもたちにPRをするお仕事フェアなどの機会にどんどん参加をいただいております。これからもそういったイベントを通じて、空の仕事の魅力を発信していただきたいと思いますし、私たちもいろいろな場面で協力をして、例えば、空港のターミナルビルを活用したPRだとか、このようなことをこれからも継続してやっていきたいなというふうに思っています。

(企画総務課長)

補足としまして、航空従事者に興味のある小学生を対象とした航空教室を日本航空高校で行っております。教育委員会を通じて各小学校にリーフレットを配りましてそこで参加者を募って、一日体験ですとか整備士の勉強などをするイベントも行っています。

(記者)

先月の議会でも、度々話題に上がっている東千歳地区の産業廃棄物処理場の問題について、住民の方々の理解を得ながら進めないといけないと議会ではとらえています。意見書も提出されていると思いますが、一方で、業者側が、ルールに則り、「必ず同意を得なければならない」ということではないという受け止めで、北海道に対しても計画書を提出している状況です。千歳市として今回の問題についてどのように受け止め、対応していくことをお考えでしょうか。

(市長)

議会でもお話をしていますが、この地区ではこれまでもこういった産廃施設の撤退に伴う後処理の問題だとか、砂利の乱掘によって農地が水枯れをしたということ、またいろいろな問題が生じた地域であります。そういうことも含めて多くの方が関心を持っていますし、地元の方々はそうした経緯も踏まえて、こういった産廃問題については非常に敏感な地域でもあります。なおかつ、地元が産廃施設に来てほしくないといった意思をもっているのに関わらず、500m以内の住民の方からも同意を得ていない、また、地域の住民の理解も得ていないという状況下では、市として、事業者に対して不誠実であり、遺憾であると議会の場でも表明させていただいたところでもあります。これについては、地元の意向も踏まえながら、改めて、条例や要領に基づいて厳正に手続き、審査を行っていただきたいと申し入れを行っております。引き続き、そのようなスタンスで臨んでいきたいと思っています。

(記者)

10月30日付で市民団体の皆さんから市長宛てにラピダス社関係の公開質問状が出ていると思いますが、本日が回答の締め切りと伺っております。必ずしも市の責任だけで答えられるような質問ではないとは思いますが、団体がおっしゃるには、市が音頭をとって市内で説明会を実施しないのはどういうことかということと、市民生活に直結する水問題について、ラピダス側は安全配慮してきちんと排水処理をすと言っていますが、化学物質の深刻な被害及び不安が根強いといったことに対して市はどのように捉えているのか教えてください。

(市長)

中身は多岐わたっています。回答期限については先方から提示された期限ですので、中身を精査するといった意味で、極力庁内でも早めに整理をして先方には回答したいと思っています。

説明会については、今までにも市内でラピダス社主催や、北海道主催で関連の説明会を実施しています。周辺の自治体でも、その概要について説明をしていただいておりますので、これから機会があれば関連の企業だとか、事業者の皆さんに事業の進捗に伴って必要な場合に検討することがあるかもしれませんが、今、具体的にそういったことは考えておりません。

それと水質の関係、これは千歳川に流すという部分だと思いますが、これは従来からお話ししているとおり、排水については千歳川、私共の処理場を介して排水をするということに

なっていますので、法に基づいた水質基準は保たれると思っておりますが、より詳細の説明については、議会の中でも説明をしていますが、今後も丁寧に説明していきたいと考えています。

(記者)

協和地区の最終処分場についてですが、事業計画書案を出すまでに事業者から市の方に説明をして、市の要請があれば環境保全に関する協定の締結を要請できると思うのですが、それについては今どのようなようになっていますか。

(市長)

まだその段階ではありません。まずその前段で地域の理解が得られるかどうかという段階ですので、今の時点では全くそういうことは考えておりません。

(記者)

進んで行ったら要請するということですか。

(市長)

地域の理解を得られるようにしっかり所定の手続きを踏んでいただきたく、それは北海道においてもそのことを踏まえて、しっかり手続きを事業者に求めてほしいと願っていますので、まずはそのことが第一かと思っています。

(記者)

千歳市として、業者さんの言い分である「理解を得られなくても進めてもよい」という捉え方ではなく、あくまで 500m 以内の住民の合意を得てからではないと計画をすべきではないというスタンスでよろしいですか。

(市長)

条例に基づく要領の中に明記されていますが、法の体系の中で条例の下の要領の効力ということ、これからいろいろと北海道とも話をしていかなければなりません。私たち行政としては、地元の意向を踏まえて最大限そのことが叶えることができるようにしっかり対応していきたいと思っています。

(記者)

この夏猛暑で熱中症の搬送人数もかなり増えたと思いますが、議会でも出ていましたが、エアコンの導入を進めるといった話が出ている中、先日市長が防衛省の方に基地協議会の件で要請に行ったというお話を伺いました。防衛省のエアコンの補助だと夏休みを除いて40日以上28度を超えないといけないなど細かなルールがあつてそれがネックになっているという状況であると伺ったのですが、その要請の内容、例えばどのようにお伝えになって、いつくらいまでに見直しを求めるような話をされたのでしょうか。

(市長)

北海道防衛局には10月23日(月)に要請に行きました。その後に引き続き27日(金)に東京に行きました。北海道基地協議会、私含めて役員の皆様、首長等で行きましたが、内容については、採択基準の緩和ということで、今言われました通り、夏休みを除外して40日、室温が28度以上といったことがあるのですが、そういった基準の緩和をしてほしいといったことと併せて、除湿設備、実際は冷房装置の設置について、早期に設置していただきたいと、この2点を要望してきました。できるだけ早い段階で来年度に向けて事業採択が叶うようお願いしてきたところであり、台数が台数でありますし、また対象となっているのが千歳市だけではありませんので、そうすると事業費も膨大ということになります。まずは、早期の採択をお願いしてきたところであり、

(記者)

来年度に向けて予算編成方針を組まれていると思うのですが、物価高騰や人件費高騰で来年度も厳しい状況であるとは思いますが。現段階で自治体として稼いだりだとか、厳しい基準の中で事業をカットしたりだとか、やり方を変えるなどあると思うのですが、現段階で、こういうような方針になると決まっていることはありますか。

(市長)

基本的には今言われた通り、物価高騰、人件費の高騰、そういう部分で大変厳しい状況であり、毎年厳しい状況ですが、新年度についても厳しい状況の中、編成作業を行っているところです。歳入を増やす、特にふるさと納税、最近おかげさまで増額となっておりますが、さらにこれを増やしていくということが求められます。また、歳出については、改めて効率よく経費を節減、これを全庁的に進めるといふことで、そうした中で財政標準化計画を踏まえながら、いろいろな中で各担当も含めて苦労して編成作業を進めているところであり、

一番大変なのは、物価や人件費が伸びている中で、事業量を同じように確保するためには、  
どうしようかという点だと思っています。

#### 4. 閉会